米国ハワイ州の外国語教育 “World Languages” プログラムから

――外国語教師の関心の所在――

山本享史（天理大学）

はじめに

本シンポジウムは「言語継承」と「文化継承」を言語学習など多様な観点から検討し、グローバル化した世界に生きる我々の「言語文化」について再考する手がかりにするという趣旨に基づいて開催された。この開催趣旨に基づき、筆者は米国ハワイ州の外国語教育について話題提供を行った。発表では前半は米国内の外国語教育への関心の高まりについて概観し、後半は高校の教科「世界言語（World Languages）」（以後、WL と表記）とその研究へのアプローチとしての活動について述べた。本稿は発表内容をまとめたものである。

教科 WL は、米国の中学、高校の 91%で設置されているが、多くの調査や研究の課題が残されている。例えば、WL 教育は社会的公正の実現への志向性を持って進められているが、学区内における選択言語や受講状況の違いについて全米的な調査は進んでいない。また、言語教師の学生に対する認識、学校関係者の進学等に関する方針や具体的提案、言語カリキュラム選択に関わる個々の教育的経験や動機に関しても今後のさらなる調査と研究が求められている（Baggett, 2016 他）。

ハワイは全米の中で最も住民の出自民族が多様であり、多言語状況が見られる州であるが、言語教育も特徴的である。筆者はハワイ州の高校を対象に WL 教育研究を進めるにあたり、交流行事の企画や研修会への参加を通じて現地の教員とのつながりを強めることからアプローチを始めている。研究協力者となるハワイの外国語教師の多くは Hawai‘i Association of Language Teachers (HALT) に所属している。ハワイの幼稚園から高校までの外国語教師の団体である HALT は、州の WL 教育を支える重要な役割を担っており、教師間の情報交換と指導力向上の機会を提供している。外国語教師の認識を探る皮切りとして、過去に実施された HALT の行事のテーマや発表タイトルを概観してみると、ハワイにおける社会的公正実現をめざす外国語教師たちの姿勢が見えてくる。

１．米国における外国語教育への関心の高まり

経済や情報、人の移動など、さまざまな点でグローバル化する中で米国では外国語教育への関心が高まっている。その理由として、人材の雇用拡大、言語の専門家の不足、地域社会からの要請などに加え、外国語教育を通じて母語と異なる言語を学習することによって得られる知的刺激の重要性、複言語能力保持者の認知的優位性が広く認識されてきていることが指摘されている（大谷, 2012）。

米国の教育政策は教養と実用の両方に目が向けられており、その認知的優位性に関する認識の広まりを受けて外国語教育の大衆教育化、「外国語」教科の必修化が望ましいと考えられてい

るとの分析がある（拝田, 2013）。全米外国語教師の会である ACTFL(American Council on the Teaching of Foreign Languages)はそのウェブサイトで、外国語を学ぶことにより、生徒の学力(academic achievement)、認知力(cognitive ability)、言語学習、話者への積極的態度 (positive attitude toward the target language and /or the speakers of that language) が向上するという研究結果があると述べている（ACTFL, 2022）。

この外国語教育への関心の高まりは具体的には大学入学要件や「二言語使用者の証（Seal of Biliteracy）」という制度にも見ることができる。全米の約４分の１の大学では、すでに 10 年以上前から入学にあたって外国語の単位取得が求められており（Barnwell, 2008）、大学進学を考えて WL の教科を選択する高校生は多い。また、2011 年以降、各州では「二言語使用者の証（Seal of Biliteracy）」という表彰制度ができてきている。この制度は高校卒業時に 2 つの言語（基本的には英語ともう一つの言語）に熟達していることが認められた優秀な生徒が表彰されるというもので、Seal of Biliteracy のウェブサイトによれば 2022 年現在、サウスダコタ州を除く全ての州で制度化されている。

２．ハワイの言語状況

ハワイは住民の民族的文化背景において米国で最も多様性に富んだ州であり、それぞれの民族コミュニティー同士が十分な距離を取りたいのであれば、州を離れる以外に方法はない(Saft 2019:6) と言われるほどの緊密さを持っている。従って、ハワイの言語教育状況もまた多様な言語の置かれた社会状況（民族集団の歴史や社会的位置、経済活動においてそれぞれの言語がいかに役立つかなど）に影響を受けているといえるだろう。

日本語は現在、ハワイで広く学ばれている外国語のひとつであるが、その複層性は興味深い。1800 年代中頃に始まる日本人移民は山口、広島といった特定の地域の出身者が多く、彼らの用いる日本語が借用語としてハワイ社会の中で定着していった。現在も *bento*（弁当）や *syoyu*（醤油）など一般的な語に加えて、*habuteru*（「はぶてる」:「怒る」を意味する広島地方を中心にした表現から）や *girigiri*（「ぎりぎり」:「つむじ」を意味する山口地方を中心にした表現から）のような移民一世の表現が現在も生活語彙として残っている。一方で戦後、観光業の隆盛に伴って多くの日本人がハワイを訪れ、移住してきた中で広がり、学ばれてきたのが、「標準」日本語である。

またハワイ語は本来、外国語ではないが、学校教育においてはひとつの外国語として学ばれる場面が多い。ハワイ語の衰退と復活の歴史と近年のハワイ語学習、ハワイ語教育の隆盛は大きな関連がある。ハワイ語は米国による帝国主義的統治の過程で 1960 年代に使用者が数千人まで減り、絶滅の危機に瀕する言語とされてきた。しかし 1970 年代に始まるハワイ先住民主権回復運動と歩を合わせたハワイ文化復興運動の中で、めざましい復活を遂げてきたのである [1)]。ハワイ語は 1978 年に英語と並ぶ州の公用語に制定され、ハワイ語のみで教育（イマージョン教育）を行う学校も増加している [2)]。現在、ハワイ大学ではハワイ語のみで修了できる博士課程まで整えられてきている [3)]。

３．“World (Foreign) Languages” 教科の設置

ハワイ州教育省（Hawaii State Department of Education: HDOE）はこのような言語状況を鑑み

て、教育政策の柱の一つに多様な文化に重点をおく多言語主義（Multilingualism）を据えている。その具現化の形のひとつが学校教育における教科「世界言語（World Languages）」の設置である。多言語主義は他にも、ハワイアン生徒の育成に焦点を当てたイマージョン教育の「カイアプニ（Kaiapuni）プログラム」、複数言語使用に熟達した生徒の育成を推進する「Seal of Biliteracy」制度、英語による教育が困難な生徒に母語でのサポート行う「EL(English Learning) プログラム」として具体化されているが、教科 WL の設置は最も幅広い生徒たちに開かれたものといえるだろう。同時に教育省は生活コミュニティーとの連携強化（Civic Engagement）にも力を入れており、各言語を生活言語とする民族グループのコミュニティー住民を言語教育のサポーターとして活用することも推奨している。

ハワイ州の公立中学、高校は約 70 校あり、教員数は約 13,000 である。そのうち W L の教員数は約 300 であり、各校に 4 名程度が所属していることになる。WL はハワイ州の公立高校教科の中で「芸術」(Fine Arts)、「就職・技術教育/予備役将校訓練」(CTE (Career and Technical Education) or JROTC)との選択になっている[4)]。先述したように大学進学時に単位を取得していることが求められるため、大学進学希望者の多くが WL を選択している。

州教育省は 11 言語（アメリカ手話、フランス語、ドイツ語、ハワイ語、イロカノ語、日本語、韓国語、中国語、ロシア語、サモア語、スペイン語）を小中高の WL の言語コースとして提示しているが、実際に設置されるコースは各学校の状況（学校の近隣コミュニティ、準備できる教員など）による。山本（2021）によると最も多くの高校で設置されている言語コースはスペイン語（96.2%）であり、その次が日本語（92.3%）、ハワイ語（69.2%）となっている。

４．研究課題の所在

Baggett (2016)の調査によると、全米の 91%の高校で WL が設置されている。しかしながら、言語教師の認識や指導の実態、生徒の言語選択動機といった点において研究課題が多く残っている。例えば、各言語を選択する生徒や言語指導に関する言語教師の認識、言語カリキュラム選択に関わる教師自身の教育的経験、学校関係者の進学に関する方針、進路選択に関する具体的提案、言語カリキュラム選択に関わる生徒個人の動機（学区内の民族出自やジェンダーなど、文化的差異による言語選択傾向）に関する調査や研究は進んでいない（Baggett, 2016)。

米国の中等教育における WL 教育研究の現状に照らし、筆者は現在、ハワイ州の中学、高校を対象として調査を始めている。現段階の研究課題は以下のとおりである。「ハワイの中学、高校の WL 教員はどのようなことを考え、どのような教育実践をしているのか。（どのようにつながりながらハワイの言語教育を支えているのか。）」

５．研究対象へのアプローチ

上記を研究課題として進めるにあたり、筆者が研究対象へどのようにアプローチを始めているかについて述べておく。まず、筆者自身がハワイの WL 教員および生徒たちとつながりをもつことが不可欠であると考えている。このために 2022 年度に行った以下の２つ、(1) ハワイ島ヒロ高校と天理高校の生徒交流会の開催、(2) Hawai‘i Association of Language Teachers (HALT) 開催行事への参加について述べる。

（1）ハワイ島ヒロ高校と天理高校の生徒交流会の開催

本企画は筆者が 2013 年度から取り組んでいる学校法人天理大学に所属する各学校の英語教育連携活動の一環として実施した。2022 年 5 月 10 日に天理高校（第一部）英語コース 2 年生 35 名とハワイ州ヒロ高校（ハワイ島）の生徒 21 名との Zoom によるオンライン交流会である。天理大学英米語専攻の大学生 4 年次生 4 名も会運営と交流のサポーターとして参加した。

この交流会は筆者がヒロ高校で日本語を教えるアヤ・シハタ教諭に相談を持ちかけ実現した。アヤ・シハタ教諭は後述するハワイの外国語教師の会である Hawai‘i Association of Language Teachers (HALT) の中心役員であり、日本語教師代表を務めている（2022 年度）。ヒロ高校から参加した生徒は同校のクラブ活動である Japan Club、Taiko Club に所属しており、日本語や日本文化に関心を持っている。交流会の前半は両校からスライドや自作のポスターを用いた学校紹介。後半はお互いの高校生活について英語と日本語で質問をし合った。筆者はこの企画の準備、実施、振り返りを通して、同校の外国語教員とのつながりを強めるきっかけとした。

（2）Hawai‘i Association of Language Teachers (HALT) 開催行事への参加

ハワイ州の WL の授業を支えている教員たちの団体に Hawai‘i Association of Language Teachers (HALT) がある。HALT は 1986 年に設立され、幼稚園から高校までの言語教師が外国語教育に関わるアイデアや経験を交換し、専門的な背景を豊かにする機会として重要な役割を果たしてきた。近年の主な年間行事は秋のシンポジウム（Fall Symposium）、セミナーと個人、グループ発表を行う春の大会（Spring Conference）、ワークショップが中心の夏のサミット（Summer Summit）である。各言語や地区の代表が HALT の役員を務め、ハワイ教育省「多言語主義による平等な教育のための諮問委員会 (The Advisory Committee for Policy 105-14 Multilingualism for Equitable Education) へ委員派遣も行っている。ハワイ州の外国語教育推進の重要な役割を果たしている組織の一つであるといえる。

筆者は HALT の事務局の許可を得て、春の大会（2022 年 5 月 1 日)と秋のシンポジウム（2022 年 10 月 23 日)に参加する機会を得た。いずれもオンラインでの参加である。これらへの参加を通じてハワイの複数の言語教師につながりを広げてきた。

６． HALT 開催行事のテーマから

本項では HALT 開催行事の過去のテーマと筆者が参加した 2022 年の行事から WL 教師の関心のありようを考えたい。2010 年以降の HALT 開催行事のテーマを概観する中で言えることは、社会的公正 [5)] の実現をめざす立場としての言語教員や学校の役割に関するものが多いということである。もう少し詳細に見ると（1）文化、言語の多様性とつながり、(2) 社会構成員としての学習者育成を目指す指導、(3) ICT による指導革新、が関心の大きな柱になっているように思われる（表１、２参照)。

表１：Spring Conference テーマ一覧

開催年	テーマ	分類
2022	Sharing Our Stories, Connecting Our Cultures	(1)
2021	Transformation of Teaching: Zooming Back to the Future- What has worked and what will you take with you?	(3)
2020	Rise HI: Elevating Multilingualism & Multiculturalism	(1)
2019	Celebrating the International Year of Indigenous Languages	(1)
2018	Learners as Leaders	(2)
2017	Celebrating Hawai‘i’s Heritage & Language Diversity	(1)
2016	“I ka ‘ōlelo ke ola” (“In language, there is life”)	(1)
2015	Advocate, Communicate, Educate.	(2)
2014	Show and Tell	(3)
2013	National Standards, Local Style	(2)
2012	Advocacy: Building Collaboration	(2)
2011	Celebrating HALT’s 25th Year!	―
2010	Innovations in Language Teaching	(3)

（分類は筆者による）

表２：Fall Symposium テーマ一覧

開催年	テーマ	分類
2022	Cultural Global Connections in the World Language Classroom	(1)
2021	SELing it in the World Language Classroom	(2)
2020	Exploring Social Justice through Technology!	(2),(3)
2019	Fall Fun-posium!	―
2018	Tech or Treat!	(3)
2017	Experience IT (Instructional Technology)	(3)
2016	Communication on the Go	(2)
2015	From Teachers to Students and Beyond: Slides, Sites, and Storytelling.	(3)
2014	Creating Practical Language Teaching Tools: Forms, Apps, and Tests	(3)
2013	Connecting Classrooms, Connecting with Students	(2)
2012	Connections with Google Tools	(3)

（分類は筆者による）

2022 年 Spring Conference の主な発表のタイトルと要旨を表３にまとめた。タイトルの後の説明文はオンラインで配布された発表レジュメの要旨部分を筆者が訳したものである。下線を付した部分は社会的公正の実現をめざす立場としての言語教員や学校の役割、および上記の分類(1)、(2)、(3)に関わっていると考えられる記述である。

表３：2022 年 Spring Conference 主な発表のタイトルと要旨

	発表タイトル	要旨
A	Teaching French civilization with songs	歌と短い文学の抜粋を通して20世紀のフランスを考察する「La Chanson Française au 20e siècle」という教材の扱い方。各曲を導入するためのストラテジーと生徒を飽きさせないためにYouTubeを使用することを紹介する。
B	Gather, Heal, Engage	刻々と変化する世界の中で、私たちはどのようにしてレジリエンスを培うことができるのでしょうか。本講演では、新しい教育・学習環境における自らの役割を再認識するために、すべての教育者が探求すべき主要な要素を取り上げる。
C	Connecting with learners on their own terms: Multilingual dilemmas and intergenerational conversations	中級・上級レベルの学習者は、言語学習に対する強い意欲を持っているが、言語使用者としての自分自身を明確に意識していない場合がある。ハワイ・ランゲージ・ロードマップが運営する、このようなニーズに応えるための2つのプログラムを紹介する。
D	Second Language Program Administrators: Critical Values and Practices	私たちの研究プロジェクトは、オアフ島の学校において、批判的または社会的正義を志向する第二言語プログラム管理者を育成することを目的としている。意思決定や政策立案の際に求められる見解、価値観、実践を検討する。
E	Elevating World Language Classroom Practice with Community Building	新しくポジティブな「世界言語」学習環境を構築するにはどうすればよいのだろうか？生徒の認知的、社会的、感情的な関与を促すような授業を設計するにはどうすればよいのだろうか。このセッションでは、発表者が学習コミュニティを築きながら、学習者を惹きつける授業実践を紹介する。
F	Encouraging Proficiency Through Mindfulness and SEL Activities	ターゲット言語でのマインドフルネスとSEL(Social and Emotional Learning) 活動は、生徒が安全な場所で自己表現できるようにすることで、生徒同士の優しさ、思いやり、理解を深めるのに役立つ。また、これらの活動は、ターゲット言語への関わりを促進し、難しいトピックに取り組んだり、議論するためのプラットフォームとなる。
G	Aloha ʻĀina Content: How are we giving back to our place?	私たちのカリキュラムに Aloha ʻĀina を取り入れるにはどうしたらよいのだろうか。地域社会における学びの機会、Kapū kākī や食料システムなどの現在の問題、そしてこれらの創設の歴史に注目する。私たちのコンテンツに中身はあるのか？この問いが、私たちの土地に恩返しをするためのスタートとなる。
H	White Rock, Gray Rock: SEL, Project Based Learning, and Japanese *Wa*	過去1年間、ワイパフ高校の日本語クラスは、日本式のロックガーデンを作るために懸命に取り組んできた。このプレゼンテーションでは、そのプロセスや学んだことを説明し、どの言語/レベルの教師でも学校で何かを作る際に役立つアイデアを共有する。
I	Engage Learners Cognitively & Emotionally with Global Competence Framework	「世界言語」の授業で、学習者を人類の次のステージを切り開くグローバル市民に育てるにはどうしたらよいのだろうか。発表者は、多様性のある授業において、認知的・感情的なタスクを通して、自己と他者とのより深いつながりを促進する学習をデザインし、促進する方法を共有する。

（要旨の翻訳、下線は筆者による）

HALT は「外国語」教師の勉強会ではあるが、各言語の指導技術の共有（例：発表 A）や言語を身につけさせるという側面を越えて、ハワイ社会の構成員である生徒たちがよりよく生きる人々の社会を実現していくために、言語教師には何ができるのかを探し求めているように思われる。また、島嶼州という地理的要因から比較的早く学校教育への ICT 導入が進められ、活用の工夫が試みられてきた様子がわかる。

「外国語イコール英語」という日本の学校外国語教育においては、TOEIC や TOEFL といったテストのスコアが重視され、その学習効果や効率性が着目されやすい。しかし、同時に重視されてきているキーワードの一つである「コミュニケーション」について考える時、言語とその文化背景への理解、共生への志向は外国語教育において不可欠である。

全米で唯一、ひとつの教育委員会の元に学校教育が統括されている州であるハワイは、文化的多様性を視野に入れた学校教育研究を進める上で私たちが考えるべき多くの事例を提示してくれると思われる。ハワイの教科 WL と外国語教育を担う教師たちに焦点を当てた研究は日本の外国語教育研究の裾野を広げるものにもなると考えている。

今回の発表で紹介した内容は HALT 開催行事の表面的な部分に過ぎない。まずはフィールドにアプローチをし、ハワイ WL 教育研究の入口に立とうとしているというところである。今後の調査、研究へとつないでいきたい。「ハワイの中学、高校の WL 教員はどのようなことを考え、どのような教育実践をしているのか（どのようにつながりながらハワイの言語教育を支えているのか）」という研究課題の追究はこれからである。

【注】

1）拙論、山本（2004）、山本（2005）はハワイ先住民主権回復運動と学校教育の強固な関わりについて具体例を挙げて分析を行っている。

2）公立イマージョン校への入学者は 2015 年から 2020 年の 5 年間に 40%増加して約 2,200 人

に、ハワイ文化を中心に据えて設立されるチャータースクールへの入学者は 21%増加して約 1,300 人になったとされる（ハワイ教育省ウェブサイト）。

3）松原好次はハワイ語教育の現状と歴史に関する論考を数多く発表しているが、書籍の中では、松原（2004）、松原（2010）が特に参考になる。

4）ハワイの WL についての詳細は拙論、山本（2021）。

5）『社会学小辞典[新版]』は「社会的公正 (social justice)」を「どのような人々にどのような社会的資源をどれだけ分配するかに関する適切さの判断基準」（p.262）と定義している。文化的多様性に富むハワイ社会においては生活に密着して特に重要な概念であろう。

【参考文献】

Adams, Kapuaokeko‘olauikaulupua Angelina Leiko. 2018. “Hawaiian Language Normalization: An Analysis of L2 Hawaiian Speaker Narratives.” *Second Language Studies*, 37(1), 35-75.

Baggett, Hannah Carson. 2016. “Student Enrollment in World Languages: L’Egalite des Chances? ” *Foreign Language Annals*. Vol.49(1), 162-179.

Barnwell, David. 2008. “The Status of Spanish in the United States.” *Language, Culture, and Curriculum*, 21, 235-243.

Higgins, Christina. 2019. “The dynamics of Hawaiian speakerhood in the family.” *International Journal of the Sociology of Language*. Volume 2019: Issue 255, 45-72.

Kahakalau, Ku. 2017. “Developing an Indigenous Proficiency Scale.” *Cogent Education*, 4 (1). 1-11.

Saft, Scott. 2019. *Exploring Multilingual Hawai'i*. Lanham: Lexington Books.

大谷泰照（2012）『時評 日本の異言語教育–歴史の教訓に学ぶ–』英宝社.

ジェニングズ，ジャック（2018）『アメリカ教育改革のポリティクス–公正を求めた 50 年の闘い』, 東京大学出版会.

拝田清（2013）「米国の外国語教育政策に見る言語文化教育観 -初中等教育を中心に-」『言語教育研究』第３号.

濵嶋 朗・竹内郁郎・石川晃弘 編（1977）『社会学小辞典［新版］』，有斐閣.

松原好次（2004）『ハワイ語復権運動の現況』関西学院大学出版会.

松原好次編著（2010）『消滅の危機にあるハワイ語の復権をめざして—先住民族による言語と文化の再活性化運動』明石書店.

山本享史（2004）『ハワイにおける先住民主権回復運動とハワイの教育の関わりについて–1980 年代オアフ島ワイアナエ地区の教育プログラムを中心に–』奈良教育大学大学院修士論文.

––––（2005）「米国の多文化教育の展開–1980 年代のハワイの教育事例を通して–」『アメリカス世界のなかの「帝国」』天理大学アメリカス学会編, pp.201-215, むさし書房.

––––（2019）「米国の付加言語教育における言語熟達度指標の意義 –ハワイ語熟達度指標 ANA ‘ŌLELO の事例から–」『アメリカス研究』第 24 号, pp.77-96.

––––（2021）「米国の高校における外国語教育の変化の可能性 -ハワイ州公立校の教科「World Languages」に焦点をあてて-」『アメリカス研究』第 26 号, pp.125-141.

【参考ウェブサイト】

ACTFL.　https://www.actfl.org/ (2023 年 3 月 9 日アクセス)

Hawai‘i Association of Language Teachers.　http://halthome.org/(2023 年 3 月 9 日アクセス)

Hawai‘i State Department of Education.　https://www.hawaiipublicschools.org/(2023 年 3 月 9 日アクセス)

Lee, S. 2020. Building A Hawaiian Language Curriculum Classroom By Classroom. https://www.civilbeat.org/2020/02/building-a-hawaiian-language-curriculum-classroom-by-classroom/ (2023 年 3 月 9 日アクセス)

Seal of Biliteracy.　https://sealofbiliteracy.org/(2023 年 3 月 9 日アクセス)